

編集・発行
自衛官守る会
〒532-0011
大阪市西中島6丁目
3番24号D426
発行日 2020年9月10日
題字 小笠原 理恵

七回目の請願提出が完了しました

今年度も第二〇一回国会に「緊急出動のある自衛官の官舎の改善に関する請願」が提出され各々の委員会に付託されたことをご報告申し上げます。皆様のご協力とご支援に、心より御礼申し上げます。

前年度、十人余りだった紹介議員の数がいきなり四十名近くに拡大しました。これまでの当会の活動の趣旨を多くの国会議員に賛同いただけようになつたことを嬉しく思います。今回、当会の主宰した請願委託の式典に出席いただいた議員の先生方のお話を文章にいたしました。

多くの紹介議員の先生方が独自の視点で自衛官の待遇を視察し、改善しようとする問題提起をしてくださる様子がこの書きおこしで伝わればいいと思います。

衆議院では紹介議員二十六名で署名数千六百二十八名、参議院では紹介議員九名で署名数千五百四十九名となりました。署名数紹介議員ともに昨年より大幅に増加しました。

本年度はさらに多くの議員から具体的なご報告もたくさん上がりました

第二回議員会館内情報交換会

今年度も衆議院議員会館の会議室で「第二回自衛隊員の待遇改善を考える会」を令和元年十二月十日に開きました。衆参両院から二十三名の国会議員の先生方、十九名の代理の方のご出席を賜りました。(議場出席順)

- 衆議院議員 三ツ林裕巳先生
- 衆議院議員 原田義昭先生
- 衆議院議員 関芳弘先生
- 衆議院議員 西田昭二先生
- 衆議院議員 長尾敬先生
- 衆議院議員 高木けい先生
- 衆議院議員 鈴木たかこ先生
- 衆議院議員 大西宏幸先生
- 衆議院議員 和田義明先生
- 衆議院議員 伊藤信太郎先生
- 衆議院議員 谷公一先生
- 衆議院議員 藤井比早先生
- 衆議院議員 石川昭政先生

請願署名委託式

令和二年二月十四日 衆議院第一議員会館第二会議室にて紹介議員の先生方との情報交換会や請願の委託式典の計二回の会合を衆議院議員会館で開きました。二月に行われた請願委託式での国会議員の方々のコメントを掲載しております。内容はそちらをご覧ください。

日刊SPA!

正論 WILL等雑誌

日刊SPA!に連載していた「自衛隊のできない100のこと」シリーズが書籍になりました。「自衛隊員は基地のトイレットペーパーを「自腹」で買う(扶桑社新書)表題になったトイレットペーパー問題を含め、様々な問題をこのシリーズで提議し、同時に国会議員の先生方と共に解決していつています。今年度は産経新聞大阪本社にて自衛官の待遇問題についての講演を行いました。新型コロナ問題もあり、今年度は動画などリモートの活動も始めたいと考えていま

す。

自衛隊雑魚寝問題に予算がつく

自衛官の職場環境問題で大きく注目された「自衛隊雑魚寝問題」も広島を中心とした西日本豪雨災害時に大きく予算がつき、簡易ベッドがたくさん運び込まれたと聞いています。自衛官の初任給も大幅に値上げされました。この値上げにご尽力いただいた山本ともひろ防衛副大臣を表敬訪問し、貴重なお話を直接うかがうことができました。

賛助会費値上げのお願い

俸給の値上げは最も難しいことだと考えていましたが、署名をあつめて国会におくり、情報提供する地道な活動が実を結びました。

自衛官の待遇改善の活動が実を結びつつある時期ですが、議員会館での情報交換会もできれば続けていきたいと考えております。ただ、新型コロナ問題もあり、今年度はリモートでの開催になるかもしれません。どうかこの活動を絶やさぬような工夫をしていきたいと思ひます。

賛助会員のご継続のお願い

自衛官のために連携して活動していただけの国会議員の数はさらに増えました。すでに様々な問題について積極的に国会内での調査、改善策が話し合われる段階になっていきます。

具体的な成果が上がって



いるこの火を新型コロナナ問題の中で絶や
すことが無いように広報活動や陳情、情
報収集はしていかなければならないと考
えております。ぜひ、賛助会員の皆様の
ご継続をお願いします。会費は年五千元
です。さらに、金額設定が自由な寄付サ
イトも作りました。ご都合に合わせた形
で応援ください

署名の締め切りは一月末日です

さて、自衛官守る会は「緊急出動のあ
る自衛官の官舎の改善に関する請願」の
署名を一月末日締め切りであつめます。
そして二月に集計を終え、国会議員会館
に衆参両院の紹介議員の先生を訪ね、自
衛官の内情をお話ししながらお渡しいた
します。さらに多数の新しい紹介議員に
なつていただける方が増えればと思いま

二月十四日 請願署名簿委託式

自衛官守る会では毎年、皆様を集めて
いただいた請願署名簿を国会議員の先生方
にお渡ししています。令和二年度は二月十四
日に衆議院第一議員会館で委託式を開催
しました。たくさんの国会議員の方々から
コメントを頂戴しましたので、その様子をお
知らせいたします。

「自衛官守る会会長 小笠原理恵より」

本日は国会開会中のお忙しい時間に私ど
も「自衛官守る会」の「緊急参集のある自
衛官の官舎の改善を求める請願」署名の委
託式にご参集いただき誠にありがとうございます

す。多くの署名をぜひ国会に届け、日用
品だけでなく自衛官の給与や法律上の諸
問題及び補償に係る問題など、さらに待
遇改善が進むようにお願いしていく所存
です。
どうか今年度も自衛官守る会をご支援
いただきます様、何卒よろしくお願いい
たします。

請願内容

<http://yakamochi.org/seigan.html>

署名用紙のダウンロード

<http://yakamochi.org/newsletter/20149mamorukai.pdf>

署名送付先

「自衛官守る会」事務局

〒5320011

大阪市淀川区西中島 6丁目3番24号

D426

います。自衛隊は災害時
に私達の命を救う頼みの
綱です。自衛官は日本を
守る最後の砦です。

自衛隊は私達の生命・

安全・財産を守る重要な

機関です。自衛隊の人員



不足、予算の不足は私達の「命」に関わる
問題です。自衛隊のどの部署もぎりぎりの
人員でなんとか回しているのが現状です
が、特に海上自衛隊の艦艇勤務、とりわけ
潜水艦の人員不足は危機的です。このまま

では海洋国家である我が国の安全は守れま
せん。

残念ながら、現在の自衛隊はみんなが入
隊したいと考える職場ではありません。ご
存知のとおり自衛隊の仕事は精神的肉体的
に 非常にきついものです。それに見合う
待遇がなければ、入隊希望者は増えません。
自衛隊を憧れの仕事に変え、途中退職者が
出ない誇りを持てる職場にしたい。そのた
めに「自衛官守る会」が結成されました。
私どもは自衛隊の職場環境を変えるために
請願を国会に提出しています。残念ながら
世間には「政治家に言つたつて何も変わら
ない」という人が多いです。「政治家は私
達庶民の言うことなど聞いてくれない」と
言う人が大半です。

しかしながら、私達、自衛官守る会のメ
ンバーもまた庶民です。何の力もお金も「自
衛官守る会」にはありません。でも、「希望」
はありました。

私は二〇一四年に兵庫県のは亡き鴻池
よしただ先生に初めてお会いし、「自衛官
の待遇改善の請願紹介議員になつてくださ
い。」と鴻池先生に書面をお渡ししました。
「自衛官のことか」と鴻池先生はそう言い
ました。そして、書類を受け取り中も見ず
に「これは自衛官によつてやつてくれと
言う請願か？」とお聞きになりました。

「もちろんそうです。」とお答えすると、「よつ
しゃ、わかつた。紹介議員になるから署名
集めて持つておいで」と鴻池先生は即答
されました。あの時の言葉が忘れられませ
ん。わかつてくれる国会議員は必ずいると
確信しました。その後の活動の心の支えと

書店にて絶賛発売中

自衛隊員は
基地のトイレトーパーを
「自腹」で買う

国防ジャーナリスト
小笠原理恵
Rie Ogasawara

予算不足で
隊員も制服も
装備も弾薬も
足りない!

なる言葉でした。
さらに、私達は自衛隊の実態を多くの
人知つてほしいと考えました。自衛隊を
たえる風潮があつても、その内情や現実は
あまり報じられません。

自衛隊の待遇問題を報じてくれるメ
ディアが欲しいと思ひ、二〇一六年に週間
SPA!編集部に飛び込みました。現週刊日
刊SPA!の編集長の犬飼孝司氏の賛同を得
られ、隔週で四年間日刊SPA!の連載枠
をいただいております。自衛隊の待遇問題
をまとめた本も出版できました。その結果、
多くの人が問題に気づいてくれました。

日刊SPA!に「トイレトーパー自
腹問題」について初めて言及した際には、
あまりにも衝撃的内容に「嘘を付くな!」
と散々叩かれました。しかし、問題は国会
で取りあげられ解決しました。

庶民の声でも国会は動くのだと私達は確
信しています。

今年度は衆参で四十人余りが紹介議員に
なつてくださる予定です。本当にありがた
い限りです。「自衛官の官舎の修繕」や「備
品購入」「災害派遣時の簡易ベッド」など
にも予算が付き手応えを感じています。

自衛官守る会の支援者は、親戚や友人、会社関係者に頭をさげて、署名を集めています。一つ一つの署名が私達、国民の「気持ち」であり「意志」です。ここにお集まりの先生方のお力でさらに大きく変えてください。この思いをぜひ国会にお届けください。どうぞよろしく願います。

「衆議院議員 杉田水脈先生」



自衛官の方々の生活改善について実際に自分の足で歩いて色々なところを見て参りました。例えば朝霞の女性教育施設が手狭でスペースが確保できないため、朝起きてベッドから出たら、今度部屋を変えてロッカー室で着替えるような状況でした。ベツ

ドのそばにロッカーが置けるほうが手早く準備ができますが、そういった小さな改善も必要だと感じました。皆さんの請願は我々にとって非常に強い力になって参ります。こういった活動がどんどん広がりに結びつくように私も頑張つて参りたいと思います。

「衆議院議員 鈴木貴子先生」

日頃から防衛省、自衛隊に対しての温かい激励、ご協力を心から感謝を申し上げます。

よく少子高齢化だから募集が厳しいと言われますが、この考えには賛成しかねると考えています。様々な職種の中で募集要件が緩いから自衛隊へ就職を決める訳では



ないと考えます。

例えば、自衛隊の官舎が地元のハザードマップで津波浸水エリアに引つかかっています。いざとなった時に出勤しなくてはならない自衛官の居住施設や防衛省関係施設がハザードマップのレッドラインに引つかかっていることは由々しき事態だと思えます。こうした問題のある箇所を改善することにも取り組んで参ります。

必要な数の自衛官を集めるためにはあくまでも自衛隊の職場の魅力を高める必要があると思つております。

自衛隊のご家族が「家族が自衛官で良かった」と胸を張つて誇りを持っていただけるといい、そんな環境作りを先輩方のご指導をいただきながら頑張つて参りたいと思つたのでよろしく願います。

「衆議院議員 城内実先生」

静岡の城内実でございます。

私は実は父が警察官だったので、小学校の頃二年ごととに四力所転校しました。全国に基地のある自衛官も転勤が多くご家族も大変だと思つた。

東北大震災の一月後に救援物資を持って福島基地に行きました。その基地の中でお食事をいただくことになったのですけれども、その日に初めて温かいものを食べることができたということでした。それまで一か月間は缶詰で冷たいものを食べていたそうです。



お風呂もあのドラム缶風呂だったそうです。自衛官とその家族も被災者でありなが

ら、一般の国民の皆さんに献身的に寒い中テント生活で頑張つていられた姿を見ました。

今、自衛官のなり手がなく、人手不足で厳しいと聞いています。そういう中でせめて身の回りの住居や手当をもうちょっとどうにかしてあげたいと言う風に思っています。「憲法違反の組織に入つて良いのか」と言われる方もいます。「早く憲法九条を改正しなくてはならない」と意を強くする次第でございます。

最後に浜松の基地の近くに「東三方官舎」というのがありますが、これどう見ても築四十年五十年のボロボロの官舎がありますが、建て直すかと思つたら外を塗り替えただけでした。それをまだ使っているのですね、いい加減に新築で綺麗な官舎を作つてほしいですよと言つと「仕方ないから」つて言つてらっしゃいました。そういうことではなかなか自衛官は集まりません。ちょっとと長くなりましたけれども、思いの丈をぶつきました。以上です。

「衆議院議員 馳浩先生」

石川一区の馳と申します。自衛官を守る

会と言つてご案内で真つ先にこれはぜひとも応援しなければと思つて来ました。

金沢市には普通課陸上自衛隊普通課隊第十四連隊がございます。その駐屯地を地元でも支えています。特に自衛官出身の市会議員が行政側との色々な交渉してく



ださい。ぜひ、全国の地方議会にも、

自衛官出身の県議や市会議員が誕生すればいいと思つています。そういう方がいれば、自衛官の任務の理解が深まり、災害など色々な課題があつた時に先頭に立つて対応してくれると思つています。

全国の地方議員に自衛官出身者を増やしていくことはとてもいいと思つています。どうぞよろしく願います。失礼します。

「衆議院議員 中谷元先生」

高知一区の中谷元でございます。今日も本会にお招きいただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス問題でたくさん自衛官がクルーズ船（ダイヤモンドプリンセス号）で支援をしております。薬を運んだり、お年寄りのケアをしたり、救急車で運んだりしています。そこで勤務した場合は、感染予防処置のため二週間は隔離された家へ帰れない決まりです。そういう中で仕事をしていた自衛官に非常に感謝をしております。



私も自衛隊で勤務しておりました。昔は師団長等の役職者にはそれ用の官舎がありました。長も普通の隊員さんと同じ官舎に入っておりますから外国の高官を恥ずかしくて呼べないのですよね。

外国の軍隊の高官の住んでいるところと比べると見劣りしてしまう現状です。もう何十年前の官舎をそのまま使っています。間取りも作も狭い。こう言つた点も

整備をしていかなければならない訳でございます。色々と皆様方が、情報発信をして問題として取りあげてくれています。どうぞ引き続きですね、頑張っていたいただきますようお願いいたします。ありがとうございました。

「衆議院議員 大西宏幸先生」



自衛官守る会の事務もさせていただいております。大阪一区の衆議院議員大西宏幸でございます。本場に小笠原さん始め皆様方には、ひとかたならぬいつもお世話になりました。ありがとうございます。

この問題を言うのも何なのですか。防衛省と自衛隊の間に温度差があり、一体ではない状況が長い間続いています。自衛官守る会の皆さんがその接着剤役を引き受けてくださったことに對しての感謝ですね。

例えば、トイレレットペーパー自腹問題も野党が言い出す前に我々はこの問題を知っていましたし、各部会でも関係議員連盟でも必ず言及していました。けれども、総理の耳には入っていません。もしくは、総理がその問題を忘れていたために野党の弁に「知らなかった」と言う答え方をしました。これは我々の負けであります。この問題を認識し、自衛隊の皆様方の職場環境を一つでも良くし、自衛隊になりましたという方を一人でも多くできるような我々は努力していかなくばいけません。

うことで、今後とも頑張つて参ります。以上でございます。ありがとうございます。

「衆議院議員 神谷昇先生」



私は大阪十八選挙区の神谷でございます。ちょうど和泉市に陸上自衛隊第三普通科連隊がございまして毎年、何回も寄らせていただいております。官舎が問題になっておりますけれども国民のために働いてきた人が官舎に帰つてゆつくりと風呂に足を伸ばして入るようなごく当たり前のことを目指して参ります。

二〇三五年前後に南海トラフ型の大地震が来ると予想されている中で、自衛官がバラバラに住んでいて緊急参集が可能なのだろうかと非常に危惧をしております。

自衛官の官舎は古くて手狭ですが、家賃は民間住宅とほとんど変わりません。同じ家賃なら綺麗で広い民間住宅に自衛官は住みます。和泉市の古い官舎はガラガラです。そういう面から考えても、官舎の設備を良くして、家賃を安くすることが緊急課題なのではないかと思っております。これから皆さんと誓つて頑張ります。ありがとうございます。

「衆議院議員 上野宏史先生」

今日は、こうした機会をいただきまして、ありがとうございます。衆議院議員の上野宏史でございます。

私は地元群馬県の前橋市で自衛官の募集相談員をやらせていただいております。



先般も群馬の地方協力本部で今の防衛の状況に関する勉強会と、後は募集の状況に関する意見交換会をさせていただきました。

自衛官の募集要項と環境が非常に厳しい状況であります。ひとつは「国家国民のために働きたい」と志願をされた方々が最終的にはやはり自衛官の道を断念されると言うケースがかなり多くなっております。

職労改善は重要です。自衛官の皆様方が本心に誇りを持って仕事をできる環境を作っていくことが、我々政治家の役割と言う風に思っております。

我々国会議員も一生懸命仕事をしていきますけれども、こうして多くの方々の心の籠もったご署名は本当にありがたいことです。

今日も多くの先生方がお集まりをいただいております。我々は一気結束して自衛官の皆様方が、本当にこの国を守るといふ大事な職務について、誇りと自信を持っていただけるように力を尽くしていきたいと言ふ風に思っています。

共に頑張つていきましょう。ありがとうございます。

「衆議院議員 小田原潔先生」

いつもありがとうございます。私は自衛官の息子であります。自衛隊官舎で育ちました。小学校は四回変わりました。母親が子供の頃、やっぱり引越し貧乏だと愚痴ついていたのを覚えています。私と妹が塾



に行きだしたら母はパートに出ました。自衛隊は退職も早いし、再就職が非常に難しい。また事故で、例えば四本指がなくなつて、親指だけになつても賞恤金三十万円一回だけしか支給されなかった例があります。

これで国を守るといふのはね、かなり厳しいものがあると思います。今防衛費五兆円を超えていますが、一兆上げるのには大きな壁があります。

装備が高額化すると、結果的に処遇を絞つて装備を買うという現状になっていると思います。なんとか憲法を改正して、ちゃんと警察じゃなくて軍隊にして誇りを持つてる自衛隊としていきたいと思つています。以上です。

「衆議院議員 務台俊介先生」

長野県の衆議院議員、務台です。千曲川の堤防決壊の際、御嶽山の噴火の際、本場に自衛隊の皆様にはお世話になつております。

千曲川の決壊の時は、災害ごみの排出のことで自衛隊が踏み込んで対処していただきました。感謝申し上げます。



私の地元にも十三連隊普通科連隊がありますが、駐屯地に旧軍時代からの展示の記念館があります。それが本場にみずぼらしい。

自衛隊と旧軍との違いを強調するため、過去の連続性をあえて否定すること余儀なくされていますが、そういうことで良いのかどうか疑問です。

やっぱり、国のために命を捧げた人を戦争に負けたからと言つて断絶してはいけな気がします。そして、旧陸軍墓地・海軍墓地もありますが、古くなつて放置されているケースがあります。こういう問題も掘り起こしていかなければと思います。

処遇の問題は本当に大事だと思えます。それに加えて、過去の歴史をしっかりと評価し、感謝する。そんなこともやっていく必要があると申し上げたかったので今日、参加しました。ありがとうございます。

「衆議院議員 古川康 先生」

佐賀県の衆議院議員古川康と申します。私の最初の自衛隊との出会いは、御巣鷹山の航空機事故の時でありました。私は消防庁の航空機つぎの担当職員として御巣鷹山の現場に入りました。自衛隊の方達が小学校の校庭にテントを張り自分達だけで現場に入っていく姿を見て、その動きを大変素晴らしいと思えました。



その後、私はカンボジアのPKOに参加し、選挙監修担当をしました。長い間、佐賀県の武雄じゃなくて、カンボジアのタケオに自衛隊と数カ月間一緒に生活させていただきました。どこにあつても規律正しく、しっかりと仕事をしていられる姿が日本に対する評価にも繋がっているということ

実感したところでございました。

多くの国民が自衛隊に感謝の念を持ってつていますが、これまで自衛隊の生活環境にまつわることにしっかりと対応をすることがありませんでした。私は正面装備よりも、こうした生活に身近な改善で一人一人の自衛官の方々に政治を実感していただきたいと思つているところでございます。

これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

「参議院議員 小野田紀美 先生」

岡山県選挙区の参議院議員小野田紀美です。ありがとうございます。もう本当にお話するまでもなく自衛隊の方々、自衛官の方々が頑張つてくださつてい



中でですね。耐え忍ぶことが良いこと「美しい日本の精神と」つて言うのはいい加減にこのへんでやめていただきたいと思つています。災害現場においても被災者には温かいご飯を、俺達は冷たいご飯という話。被災者はダンボールベッドだが、自衛隊は床で雑魚寝とか。

それが美德じゃないと言いたい。ちゃんと支える側が安定した心身の状態で居ないと、支えることはできない。ということ、国民皆が考えたい。日頃住んでいる官舎に閉しても日頃の生活が安定してしっかりと体を休めることができなければいざという時に国民は守れないんだという意識を広げていきたい。我々も声を大にしてこの予算獲得を頑

張つていきたいと思つています。これを私達だけが進めるんじゃないで、全国民の意見にしていきたいものです。

ぜひこれからお力をお貸しください。よろしくお願ひいたします。

「衆議院議員 三ツ林裕巳 先生」

はい、皆さんこんにちは。埼玉十四区の衆議員の三ツ林裕巳と申します。私は医師です。そして朝霞の駐屯地の近くの病院に、ずっと勤めておりました。

朝霞の体育学校の重量

挙げで金メダルを取られた三宅義信先生から良くお話を聞きました。



三宅先生は「私は金メダルを取つたから体育学校の校長になれたが、退官後の自衛官の再就職は厳しい。安心できるように国がやってほしい。そのことをみんなにシェアしていただきたい。」と言うお話を聞かされました。

住環境もとても大事ですけれどもやはり、自衛官の退官後の将来もしっかりと見据えて国会でシェアしていきたいと考えています。

多くの国民が自衛官の皆さんの皆さんに感謝していると思つています。

ぜひとも自衛官を守る会や皆様からご指導いただいでしっかりと努めて参りたいと思つておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

「衆議院議員 三谷英弘 先生」

比例衆議院議員 三谷英弘です。私の父

親が実は海上自衛官でございました。ですから、官舎生まれ、官舎育ち、度重なる転勤、転勤の日々でした。政治家としては所謂幼なじみが地元には所謂幼なじみがやらせていただいでいる訳で政治活動という意味では鬼気迫つています(笑)



それはそれで良いのですが。そういう意味で本当に、「自衛官の官舎をなんとか改善しなければいけない」という思いは非常に理解しているつもりです。しっかりと、職務改善に繋げていきたいという思いも共通させていただいでいます。

いつも父親が「自衛隊は災害救助隊じゃない」と常に言つておりました。もちろん、そういった活動を通じて国民の理解をいただくのは大事なことだと父親も言つておりましたが、「国を守ることが最優先であつてその災害救助は本筋ではない。有事の時に備えることが大事で何かあつた時に命を捧げる覚悟があつてやっていると国民の中に、もつともつと理解されると良いな。」と言う風なことを言つておりました。

「救助ということに時間を割かれて、訓練に割く時間も非常に制約されている」という話を聞いております。

まあ、本筋の職務にもつともつと専念できる環境もぜひとも整えたいなというふうにも思つています、以上です。

「衆議院議員 宮崎 正久 先生」

沖繩、衆議院議員、宮崎正久です。日頃から、私達の地域は国境を抱えておりますので、本当に日々の自衛官の活動に心から感謝を申し上げますのでございます。

自衛官は緊急の出動を要する場面が多い。そして平素から困難な状況に遭遇することを前提とした上で、ご家族や周囲の支えと理解とともに仕事をいただいております。

他の職種よりも公務をやりやすいように地域の皆さんの理解が広まるようにと思っております。

その活動を私も先頭を切つてやりたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。ありがとうございます。

「衆議院議員 長島昭久先生」
皆さんこんにちは、衆議院議員の長島昭久です。かつて防衛政務官、防衛大臣を務めて参りました。

この度は自衛隊の皆様方の待遇の改善、とりわけ家族の皆さんが隊員の皆さん温かくお迎えする官舎の改善についての陳情をいただきました。

昨年は、例のトイレトーパー自腹の問題で、自衛隊の皆さんを応援している皆さんの心を痛めてしまいました。本当にあの申し訳ない思いでいっぱいでございます。ようやくこれも改善に向けて、一歩を踏み出したところであります。

先日、私どもは安全保障委員会で郡山駐屯地を視察させていただきました。高利山駐屯地は、台風災害に向けた災害出



動の拠点となつていたところでした。その時、駐屯地の中の官舎を見て本当に愕然といたしました。

まだまだ耐震の対策もできていない官舎で食堂からトイレに行くのにいったん外に出て別の官舎に行くようなところでした。真冬は大変だという話をさせていただきました。

私達の暮らし、生命財産。日本の平和を守るために命をかけて訓練をし、現場で汗をかいていただいている自衛隊の皆さんの心が和むような官舎に作り変えていかなければならないと思えました。

私達今まで兎に角、正面装備に目が行きがちだったので、やりがい、やる気の込められる生活環境をしつかりと整備していく。そういう責任が私達政治家にあるということを改めて教えていただきました。

日頃から応援いただきました。本当にありがとうございます。

「塵も静かにをさまりて」

(防衛大学校追遥歌三番)

苦節二年・いよいよと言うか、ようやく貴族に列せられる時が来た。三学年に進入し、名札に黄色い学年識別色が付くと本



海上自衛官が
南極観測船「しらせ」で学んだ
きつい仕事に
潰されない人
のルール

元海上自衛官 泊太郎

全国書店で
好評発売中!

当に嬉しい。下級生がカタター訓練で奴隷船を漕いでいる横を、ヨットで駆け抜ける喜びと言ったらなかった。そのクラブ活動も、五月の関東学生連盟選手権（春のインカレ）の試合で全日本に行けないことが判明した時点で、四学年から三学年へ政權交代となるので、クラブ活動でも実権を握ることが出来る。学生舎でも、一学年生に二学年生がワーワー言っているのを横目で見ながら、口元に笑みを浮かべて「あー、ご苦労さんだね」とか言いながら、鷹揚と歩いて行けるのだ。もちろん彼らは、直立不動で敬礼してくれる。しかも学生隊の運営主体は四学年だから、口を出すこともなく責任もない。ある意味、防衛大学校で一番お気楽な期間であることから、これを貴族と言わずして何と言おうか。

夏の訓練では、航空実習と言って海上自衛隊の航空基地に二週間程度の期間で滞在し、航空機の操縦などの実習をさせてくれる。この間は、研修先が実家に近い鹿児島県鹿屋基地だったこともあり、楽しいだけの実習であった。実習後の夏休みはヨットの合宿であつたという間に終わり、秋のインカレ、開校祭と充実した学生生活が続く。インカレ期間中には自衛隊記念日行事として観閲式があり、当時は毎年朝霞駐屯地で実施されていた。先頭を行進する榮譽を担う防衛大学校学生隊は、観閲式当日ま

波濤をこえて 第四回

正会員 星山良一 (元海上自衛官)



た。当時の海自主力機はP2Jという対潜哨戒機と、元は空母艦載機であったS2Fという対潜哨戒機だった。就役から除籍されるまで一機の墜落事故もなかったP2Jは安定した乗り心地で、機首のガラス張りの席に座り、低空に降りて草原を走る馬を見せられたりした。一方、S2Fは導入以来何回も墜落事故を起こしており、体験搭乗で乗る前に機長から「生命保険に入っているな？」だの「親には逝つてきまつつて言つたか？」とか、真顔で脅された。「これやつて落ちてたりするんだよなーw」とか言いながら、ロータックという海上超低空での飛行訓練でビビらせてくれたが、上空に上がつて操縦させてもらつたら、ずんぐりした機体にもかかわらず操作に対する応答は良かったように記憶している。

二学年での護衛艦実習、三学年での航空実習は、それぞれ海上要員の学生が任官後の進路を決める上での参考となるように計画されているのだが、たとえ船酔いに苦しめられても護衛艦艦長を目指そうと決めていた私には、研修先が実家に近い鹿児島県鹿屋基地だったこともあり、楽しいだけの実習であつた。実習後の夏休みはヨットの合宿であつたという間に終わり、秋のインカレ、開校祭と充実した学生生活が続く。インカレ期間中には自衛隊記念日行事として観閲式があり、当時は毎年朝霞駐屯地で実施されていた。先頭を行進する榮譽を担う防衛大学校学生隊は、観閲式当日ま

防衛省・自衛隊への

ご支援誠に有難うございます

国民を守ることが自衛官の職責であり、国民から守られるというのは想定外ではあります。防衛省・自衛隊は、国民の理解があつて初めて成り立つ組織である、との観点からすれば、「自衛官守る会」会員の皆様の日頃よりのご支援とご協力は、大変心強いものです。誠に有難うございます。

近年、我が国では大規模災害が多発し、その都度、各地からの派遣要請を受け、或いは、自主派遣として自衛隊を派遣し、被災者の救出、被災地の復旧にあたつております。その活動ぶりを見て頂いた国民からの自衛隊への信頼が着実に増え、いざという時は自衛隊が助けに来てくれる、との期待も大きくなって来ていると思います。とは言え、その信頼や期待が、そのまま自衛官への支援に直結しているわけではありません。なぜならば、困った時に助けに来てくれるのが自衛官であり、その自衛官が日頃の勤務において困っていることがあるなどとは誰も知らないからです。他国に比して我が国の防衛費は、多いとは言えません。そのような環境下でも自衛隊の任務は年々と増えていき、今や、我が国の平和だけでなく、

世界の平和にも貢献する自衛隊となつています。限られた予算の中で任務だけが増えていく、そして、世界に出てみると他国の軍との違い、例えば、メダル（勲章）が無いなど多々直面するようになりました。今後、自衛官が伸び伸びと活躍してもらうために改善しなければならぬことは沢山あります。私も微力ながら一つ一つ改善をしようと取り組んでおります。

例えば、自衛官の待遇改善に関しては、自民党国防部の部会長を務めていた際に、防衛大綱などに従前の「待遇の向上」を記しても一向に進まない、と判断し、「給与」を含めた待遇の改善を記すように求めました。しかし、党政調や防衛省内局のスタッフ達から異口同音「給与の文字は消してくれませんか?」「既に待遇の中に給与も含意されています」「予算が絡んで、来ますから」と言うのです。私は「ダメだ。給与の文字を入れないと部会長としてこれは認めない」と何度となく突き返しました。最後は「この文章は閣議決定されるので、何とか矛を収めてくれませんか?」と政調・防衛省双方から言われ「何を言っているのか?閣



防衛副大臣
衆議院議員
山本ともひろ

議決定するから意味があるのだ。給与と書かないと認めません」と。そして、晴れて「給与」の2文字を入れた防衛大綱（案）を了としました。結果、これを後盾に財政当局にも閣議決定された大綱に「給与面の改善」と明記されていますよね?と攻勢に転じ、今回、初めて新入隊員の初任給を一気に引き上げることに成功しました。新入隊員に大いに期待しつつ、応援頂いた本会の皆様にも感謝申し上げます。

私が、数年前から取り組んでいた防衛記念章のメダル化（功労章）も昨年度4月から実現しました。今まで第1〜3級の記念章はメダルも授与されていましたが、第4〜5級は略綬のようなバー状の記念章だけでしたが、昨年度からはメダル状の功労章も授与することにしました。これらの改善も私一人の力では成し得ません。本会の会員の皆様の力強い後押しがあるからこそ実現できるのです。まだまだやるべきことは山積しています。引き続き、防衛省・自衛隊にお力添えを賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

では毎日パレード訓練を行うのだが、インカレ期間中のスポーツ部はパレード参加が免除されていたので、私自身観閲式への参加経験はない（何が楽しくて、鉄砲担いで行進しなきゃならんのだと思っていた）。十一月の開校祭では棒倒しや文化部の発表会、模擬店など多忙を極めるが、我々はその準備などで四学年を補佐するだけの気楽さだ。

やがて冬休みを終えると、あとは上級生が卒業するまでの間、貴族の地位を楽しむだけだと思っていた。しかし、そんな良いことばかりが続く自衛隊ではないことを、賢明な読者の皆さんはすでにお気付きであろう。そうなのである。地獄が待っていたのである。それが、「断郊」と呼ばれる持久走競技である。なんだ、マラソンかと思つた人は、防衛大学校いや自衛隊の恐ろしさを知らない人である。断郊競技会とは、各大隊の三学年生が八名一組のチーム（分隊）を編成し、各個人は作業服に半長靴という名の戦闘用ブーツを履き、背囊、水筒等約十キログラムの装備を身につけ、高低差五十メートルのアップダウンがある距離七キロメートルのコースを走るタイムレースである。毎年、ゴール後失神する学生続出の過酷な競技会なのだ。恰好から言えば、陸上自衛隊の戦闘服・装備を着装して走るわけで、とても走るのに適した恰好ではない。半長靴はごわごわの硬いブーツで、歩くのでさえ重くて疲れる代物であり、マラソン大会等で好記録を連発した某社の厚底

シューズなどは、比べるべくもない。もちろんいきなり走るわけではなく、約一か月前から事前訓練を行うのだが、上級生が指導するわけではなく、すべて自発的な訓練である。おそらく、四学年進級に当たつてのリーダーシップ、フオロワースhipの涵養でもあるのだろう。チームの足を引っ張らないように、また、恥ずかしいタイムを残さないように、毎日夕闇迫る観音崎公園から学校まで駆け登りながら、ただひたすら自分と闘うのだ。誰からも監視、強制されないがゆえに、仲間迷惑をかけない、遅れそうな仲間は全員で助けるという意識をもって、ストイックに自分を鍛えるのだ。

体力の限界とは、なかなか来ない。来てくれたら気を失つて楽になれるのにと、白目を剥きそうになりながら思ったものだ。地獄のような断郊競技が終わると、いよいよ夢にまで見た王様の地位が目の前に迫つてくると同時に、あと一年で卒業して任官しなければならぬという静かな圧迫感を感じるようになる。特に、四学年生が支給された各自衛隊の制服に袖を通し、幹部候補生学校への不安、中でも海上自衛隊幹部候補生学校、通称赤レンガの赤鬼・青鬼の話をお口にするのを聞くと、「マジか。また一学年に逆戻りかよ」と、うんざりするのだ。でも、まあいい。これから、王様としての一年間を思いっきり楽しめばいいんだ、と気持ちを切り替えることにした。体力的にキツイ競技もやらなくて良いし、文句を言う上級生もいないのだから、天国

のようなものだと思えることにはした。だが、新学期から学校の方針が変わって学年別中隊にするというお達しが来た。学生が猛反対していた、いわくつきの編成替えだ。我々の期が入学した時は、同じ部屋に四一学年生と一緒に起居（おおむね各学年二名ずつ）する八名部屋であった。我々が三学年になった時に一部学年別へ、そして四学年で実権を握るという時に学年別中隊編成になったのだが、その話は次回へ譲ることにしよう。

デザイナーワークス@自衛官守る会

一口に「デザイナー」と言っても、いろいろな分野がある。ファッション、プロダクト、情報・・・それぞれの分野で活躍するデザイナーは、それぞれに磨き上げるスキルが異なっている。その専門性故に、ファッションで大活躍している方に、他の業界のデザインを依頼しても、多くの場合は残念な結果になる。理由は簡単で「魚屋で文房具は買えない」これと同じだ。

この会報の制作は「DTP (Desktop Publishing) デザイン」、広告・出版業界の技術だ。しかし、私はDTPデザイナーではない。元はウェブと映像・画像系が専門なので、本物のDTPデザイナーが見たら、目も当てられない誌面になってると思える。過去にICT企業の販促資料、カタログを作った経験が、こんな真似事をする

自衛官守る会

on



自衛官守る会公式 YouTube チャンネルを開設しています。当会の報告会をはじめとする、様々な活動状況を配信しています。

Streaming Now!

自衛官守る会

現職 山本ともひろ 防衛副大臣

自衛官守る会 会報へご寄稿頂きました！

令和2年度 会報 WEB 版速報

現職 山本ともひろ防衛副大臣より
令和2年度自衛官守る会会報にご寄稿頂きました！
ありがとうございます。

令和2年9月2日
速報！自衛官守る会会報WEB版



切っ掛けになった。この事が、当会にとって幸運なのか不幸だったのかは解らない。会の設立当初から、会報を初めとする紙のメディアの制作と調整、マスコットキャラクターや、会のシンボルマーク、ピンバッジの開発など、全てを手掛けてきた。特に会長の副会長が女性である当会は、男性色が表に出ることを抑え、女性らしい「たおやかさ」を守りながらも「芯の強さ」を主張できるように、知恵を絞り出してきた。いろいろと足りない事も自覚しているが、ここだけはブレることなく、守ってきたことだ。

石田 和昭

（自衛官守る会 デザイナー）
e-mail : ishida.kazuaki@gmail.com